

神(神)

一三、廣瀬中佐 (巖谷季雄)
神洲男兒 かずあれど、

男兒のうちの眞男兒、

世界にしめす鑑とは、

廣瀬中佐が事ならん。

すでに一度死を期して、

旅順封鎖に向ひしが、

事意に満たぬ無念さは、

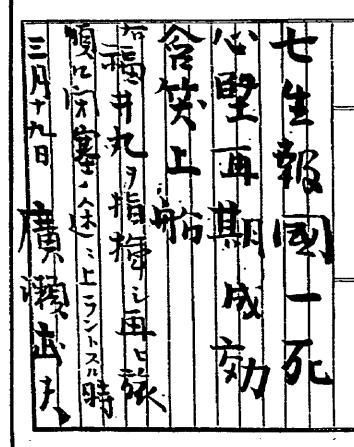
ふたゝび結ぶ決死隊。

もとより君に捧げし身、

妻も迎へず子も持たず、

父の寫眞と兄の文、

股肱



これぞはだへの守なる。

かゝる強將上にあり、

下に弱卒などあらん。

中にも杉野兵曹長、

中佐が無二の股肱なり。

上下心を一にして、

入るや虎穴の奥ふかく、

その大任は船底に、

積める石よりなほ重し。

探海燈は、いなづまか、

水雷はげにいかづちか、
中にひるまず悠々と、
行くや名に負ふ鬼中佐。

港口ふさぎて爆沈し、

任務はかくて果ししに、

兵曹長はいかにせし、

姿も見えず影もなし。

「杉野はいづこ杉野よ」と、

呼べど答はあら海に、

こだまと聞くは砲彈の、

船にくだくる響のみ。

三たび求めて三たび得ず、

「かくては君もあやふし」と、

促されつゝ本意なくも、

小舟に移り乗らんとす。

時しもあれや轟然と、

耳をつんざく敵彈に、

血煙船に立ちこめて、

中佐の姿はやもなし。

五尺の體の名残なる、

千古
寶(宝)

たゞ一寸の肉塊は、
忠血義血俠血の、
千古に朽ちぬ寶ぞや。

あないさましの軍神、
七度人とうまれきて、
わが帝國や守るらん、
わが帝國や守るらん。